



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第9号

2007年8月11日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

あったかウェルねっと7年目の主催事業を開催します！

埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修を修了した、各地の推進員が手をつなぎ、2001年にネットワークを組みました。その後、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいと、愛称を「あったかウェルねっと」と命名し、今日の活動に至っています。

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

これまでの主な活動

- 2002年 「自分が地域が好きになる福祉交流セミナー」
- 2003年 「地域をつなぐあったかはあと福祉交流セミナー」
- 2004年 全国障害者スポーツ大会ふれあい広場「あったかはあと 彩の国から発信！」ブース出展
- 2005年 「住民参加の手法に関する研修」主催：埼玉県社協 共催：あったかウェルねっと
- 2006年 日本福祉教育・ボランティア学習学会埼玉大会「あったかウェルねっと5年の歩み」ブース出展

このように県民対象のねっと主催事業を毎年おこなってきましたが、今年度は、三芳町を開催地として、福祉交流セミナーで楽しく学び合います。参加をお待ちしています。

2007年10月13日(土)

**あったかウェルねっと 福祉交流セミナー
 「つなごう人の輪 みんなが主役」
 ~自分のしあわせ、みんなのしあわせ~**

会場：コピスみよし(三芳町役場前)
 *東武東上線「鶴瀬駅」西口下車

時間：10:00~15:40

内容： やってみるコーナー
 (ボランティア体験ブース)
 伝えあうコーナー
 (課題別体験ブース)
 企業のユニバーサルコーナー
 (高齢者の食事、音声と文字「携帯&音声機器」・他)
 アイディアコーナー
 (くらしの工夫体験ブース)
 学校&地域コーナー
 (参加者全員で学習)

参加費：大人1000円(昼食代を含む)
 学生・生徒500円(昼食代のみ)

対象者：埼玉県民および福祉に関心のある人

主催：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(あったかウェルねっと)

後援：埼玉県、埼玉県教育委員会、
 埼玉県社会福祉協議会、
 三芳町、三芳町教育委員会、
 三芳町社会福祉協議会

協力：日本福祉サービス、池野通建、
 ドコモ、宅配クック123、他

参加者・ブース出展者
募集中!

平成 19 年度総会 & 研修会 報告

平成 19 年 5 月 13 日(日)、あったかウェルねっと総会が開催されました。



平成19年度総会

彩の国すこやかプラザ
4階会議室にて

坪井代表のあいさつに続き、来賓の大塚宏彦氏(県ボランティア・市民活動センター長)、原田正樹氏(日本福祉大学)より、7年目を迎える当会への心強いエールをこめたご挨拶をいただきました。また、佐藤陽氏(十文字学園女子大学)、中島修氏(東京国際大学)からは、これまで続けてきた「気づきの場づくり」へのエールを、メッセージとしてお寄せいただきました。

議事では、会員からの積極的な質疑応答後、今年度の規約・事業計画・予算・役員が承認され、新副代表の矢島常多氏より、今年度の活動への協力の呼びかけがあり、「平成 19 年度あったかウェルねっと」がスタートしました。



午後の学習会

その後、昼食をいただきながら和気藹々の情報交換と、参加者全員の「一言自己紹介」は今年も好評でした。

午後からは、「地域福祉と福祉教育の視点を探る」と題して、原田正樹氏より、1.なぜ今、福祉教育なのか、2.地域福祉の考え方、3.地域福祉の推進と福祉教育、4.推進員としての具体的な取り組みについて、の助言をいただきながら、「夢を語ろう！推進員として、地域でできること」のグループワークをおこないました。

地域の間人関係を豊かにする取り組みが展開されている地域は、犯罪発生率が少ない、悪徳商法の被害が少ない、出生率が高い、

健康な人が多い、災害時に強い、など、地域ぐるみでできる「小さな実践の積み重ね」が地域の福祉力になり、実践を通じたお互いの学びあいが必要、と確認し合った学習会でした。(参加者の感想より)

**平成 17・18 年度
学民ジョイントプロジェクトを振り返って
～官・学・民の協働実践～**

2年間にわたった学民ジョイントプロジェクトは、埼玉県教育委員会(官)の主催で、あったかウェルねっと(民)が、日頃の推進員活動の経験を基に総力をあげて、深谷市立南中学校(学)や地域と協働実践を重ねた、大変に意義深い事業でした。

今後に活かせるよう、南中1年生(176名)との学習内容を、ここで改めて振り返ります。

深谷市立南中学校での「学民ジョイントプロジェクト説明会」と、複数の団体によるプレゼンテーションで、あったかウェルねっとが選考されたことから学民協働の実践が始まった。

深谷市立南中学校とあったかウェルねっとは、お互いのプログラムを理解し合うため、事前の打ち合わせをととても大事にした。

...それぞれのねらい...

学のねらい

「本物に触れる、現実に学ぶ、未来に向け学ぶ」で、本題は「あたたかくふれあう力」です。この学習により、未来の社会人として、子供たちの生きる力を大切に育成する。

民のねらい

「自分が生きる、共に生きる」で、本題は「共に生きる社会の一員として、今自分たちにできることの実現」です。人との出会いや実体験が希薄になってきたといわれる子どもたちに、障害を素材にした学習を通して、豊かな福祉観を持つ大人たちと共に学びあい、共に生きる楽しさを知り、自分のやさしさに気づき、他者への

思いやりの心を育てる。

官のねらい

17年度18年度の2年間で、学校と民間をつなぎ、民間と学校それぞれのノウハウを絡ませて、学校の授業を質の高いものにする。

繋がっている三者のねらいを大切に捉え、学民が協働し、生徒たちの心の成長にあわせ、最後まで「心の耕し」を主眼とし展開させた。

一つの学習が終わるごとに生徒の「気づき」や「関心を持ったこと」など記録を綴らせ、自己分析を繰り返し、生徒自身の変化(成長)の気づきを積み重ねた。

...目標を明確に。起～承～転～結！...

【研究主題】「共に生きる社会の一員として、今、自分たちに出来ること」

起...学習内容を「課題」として意識していない段階

導入「福祉って？ボランティアって？」(総論) 地域を巻き込んだ「本物に触れる・現実に学ぶ・大規模体験学習」(各論)
*会報5号に掲載

承...自己をふりかえり「課題発見・課題設定」生徒が興味、関心を持った福祉課題から、「自分自身の課題」を決め、自主的に新しい班での学習を開始。

転...自らの自由な発想で「課題追求」次第に自分の住んでいる地域に目を向け、一人一人が関心を持った問題解決に向けて、仲間と協力し合い、地域社会の課題を追求する生徒たちの創意工夫による学習。

結...学習内容を自らの課題と意識した「課題解決への提言」

「私の取り組み、活動内容」体験したこと、わかったこと、「今後さらに調べたいこと」「これまでの取り組みで、私の考えは」等各自分のまとめ後、グループでまとめ・発表。

導入部の学年全員学習に始まり クラス生活班 課題別編成班 まとめと進み、学年で共有しあい、1年生が体験し調べたことを

全体発表会で上級生にも伝え、17年度の学びを全校で共有。

学民の2年目は、学校が主軸になり、更にPTAや地域へと協働実践の輪が広がりました。一年目の成果も含め、続きは、次号に掲載します。

関連団体で、あったかウェルねっとを紹介

7月28日(土)～29日(日) We フォーラム 2007 in さいたまが:埼玉県男女共同参画推進センターWith You さいたまにおいて開催され、推進員が多数参加して、活動発表コーナーで「あったかウェルねっとの活動紹介」をしました。

「ひらく&つなげる～ネットワークをつくり、わたしをエンパワメントするための2日間！！」

7月28日(土)全体会
シンポジウム:「ごちゃまぜがいい～いつのまにか元気になれる場所～」

7月29日(日)分科会
金子みすゞ物語&朗読ワークショップ・模擬授業 失敗しない!?恋愛講座・いま、学校でできること・子育てとジェンダーをつきつめると幸せが見える!?・みんなで子育ての時代 養子親制度を考える、などの9分科会がおこなわれました。

依頼があり研修会に協力しました

2007年6月25日
春日部税務署「バリアフリー研修」
～ノーマライゼーション・共に生きる社会を目指して～
視覚障害者の立場から(桶川市・2期推進員; 松嶋文雄) 聴覚障害者の立場から(草加市・6期推進員; 山本美念子) 高齢期の心身の変化/他(坂戸市・1期推進員; 横田八枝子)

2007年7月27日
埼玉県社協「福祉教育・ボランティア学習養成研修」
～福祉教育推進員の現状と課題～
事例発表(草加市・6期推進員; 山本美念子)
(坂戸市・3期推進員; 須田正子)

2007年7月31日
越谷市社協「福祉教育研修」
～学校での福祉教育実践より～
視覚障害者の立場から(さいたま市・6期推進員; 水出智津&盲導犬ユザ) ボランティアの立場から(さいたま市・1期推進員; 稲葉ユウ子)

各地で活躍中!

みなさまから
の情報を
お届
け
ください!

県社協からの情報★★★

平成19年度福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修が始まっています！

7月27日(金)から8期生の推進員養成研修が始まりました。地域の福祉力を高めるために、住民の福祉意識の醸成を図り、住民が地域の福祉問題に気づき、それぞれの特性を活かしながら、解決に向けた取り組みを行っていくことが求められています。

そこで、福祉教育・ボランティア学習のあり方と具体的な推進方策について参加者と共に学び、住民主体の地域福祉活動を関係機関と協同して進めるための学習プログラムを展開しています。

- ・基本コース(全7日間)
- ・学習支援コース(全3日間、)
- ・地域福祉推進コース(全5日間、)
- <研修内容>
- 7月27日(講師:学習院大学 長沼 豊 氏)
 - ・福祉教育の価値、概念、実践の現状と課題
 - ・福祉教育推進員の現状と課題
 - ・福祉教育で大切にすること
- 8月3日(講師:埼玉大学 河村 美穂 氏)
 - ・子どもの育ちと福祉教育について理解する
 - ・福祉教育の学習企画、学習プログラムの作成や評価の視点
 - ・協同実践の視点について学ぶ・協同実践の手法の習得
- 8月11日(講師:十文字学園女子大学 佐藤 陽 氏)
 - ・学習支援者として重要な視点
 - ・学習支援者の果すべき役割と留意点
- 8月17日(講師:高崎健康福祉大学 金井 敏 氏)
 - ・地域福祉を推進する上での福祉教育が必要とされる背景や果すべき役割
 - ・住民が参画し、自らが安心して暮らせるまちをつくることの意義や方法・住民の福祉意識を高める手法
- 8月18日(講師:東京国際大学 中島 修 氏)
 - ・地域福祉の推進を阻害する要因の探し方やとらえ方法
 - ・地域の福祉問題、ニーズを発見し、整理する手法
- 8月27日(講師:東京国際大学 中島 修 氏)
 - ・整理した問題を解決するために、地域で共有化したり、地域資源の情報やデータの収集

を行う手法

- ・問題解決に向けた、合意形成や組織化、問題提起などの手法
- 9月15日(講師:十文字学園女子大学 佐藤 陽 氏)
- ・地域の問題を解決するための体験学習方法について、意義や留意点を学習
- ・問題を解決するための体験学習のプログラムを作成

すでに推進員になられている方もオブザーバーとして参加することができます。事前に県社協担当者にご連絡ください。

新潟中越沖地震

新潟県刈羽村に、7月26～30日まで埼玉県社協職員を派遣し、被災地に設置された災害ボランティアセンターで、ボランティアの受付業務などを行い、県内外から来るボランティアによる復興活動の支援をしました。被災者は、日々の生活に不安を抱えながらも互いに助け合っていました。今後、被災者が、震災前の生活に戻るには時間が必要です。新潟県内の市町村が中心となって、そこに住民・社協など様々な立場の人々が協力をしながら自分たちのまちの復興を目指していく、その仕組みや体制を支援していくことが、我々、埼玉県に住む人達がやらなければならないことと感じました。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉) Well Being(幸福)のWell(大切にという意味)です。私たちのネット愛称には、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいとの願いが込められています。
ホームページ <http://www.geocities.jp/attaka17/>

編集後記

62回目の原爆忌。広島の子供達のメッセージに「亡くなられた人を助ける事は出来ないけど、未来の人を助ける事はできる」とありました。ふだんのくらしのしあわせのためにみんなで考えられる社会になるといいですね。(M.Y)



発行:彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
(愛称:あったかウェルねっと)
編集:あったかウェルねっと世話人会(情報担当)
連絡先:埼玉県社会福祉協議会 埼玉県ボランティア市民活動センター
(担当:高山・石田)
TEL: 048-822-1435 FAX: 048-822-1449
E-メール: vc@fukushi-saitama.or.jp